

設備設計1級建築士

1. 試験の現状把握

設備設計1級建築士は、8月上旬に開催される「講義」を受けて、10月上旬に行う試験「修了考査」に合格すると取得できる。修了考査は、下記①と②の考査区分に分かれる。建築設備士の保有者は①のみであり、その他の方は①と②が修了考査の内容となる。修了考査は、講義で配布される「講習テキスト」を持ち込むことができる(マーカー、付箋等可)。

- ① **法適合確認**(空調換気設備、給排水衛生設備、電気設備、輸送設備の各5問)
- ② **設計製図**(設備計画10問、設備設計(空調換気設備、給排水衛生設備、電気設備)の3分野から1つを選択)

ここで重要となるのが、設備設計の中の選択問題、つまり「空調換気設備、給排水衛生設備、電気設備」のどれを選択するかである。

電気が専門の方は、「電気設備」を選択することとなる。空調・給排水の設計を日頃している方は、どちらかを選択する必要がある。研究会としては、過去問の分析から傾向がつかめやすい「給排水衛生設備」が有利であると見ている。本講座は2017年から公開したものであり、現在、講座は時間の都合等から「給排水衛生設備」のみを解説する(つまり、空調換気設備、電気設備の解答は行っていない)。

この選択問題以外である「法適合確認」と「設計製図の設備計画10問」については、全てを解答する。

2. 1回で合格する方法

設備設計1級建築士の合格率は、区分により下記の通りである。

申込区分Ⅰの合格率(建築設備士無の方):年度により**10~30%**

申込区分Ⅳの合格率(建築設備士保有者):年度により**50~80%**

1回の試験で合格するには、過去問の学習以外にないと言える。逆の言い方をすると、過去問をしっかり学習すれば、1回で合格できる試験でもある。

設備設計1級建築士は、「**建築設備士**」を持っていると、試験は「**法適合**」だけとなる。しかし、この法適合だけでも、テキストをかなり読み込んで、マーカーと付箋をして試験に望んでも、簡単に合格できない。その理由は、1問にかけられる時間が6分であり、その時間内に間違い箇所を見つけて、その理由を記述しないとイケないという点である。また、4科目(空調、給排水、電気、搬送)の各5問解答には、それぞれで足切があるので、時間が無くなり、どれかの科目があまり出来ていないと不合格となる。

⇒**建築設備士**を持っている方も油断しないで下さい。・・・「法適合」だけの試験でも**簡単に合格できない**

建築設備士を持っていない方は、設備設計も試験になるが、その難易度は更に高まる。

設備設計1級建築士は、過去問の解説書が販売されていない。資格学校では、過去問解説がされるが、**40万円**を超える講座であり、あまりに高額である。当HPは、H21からの過去問解説を掲載している(ただし、図等は手書きできれいではない)。また、2018年から設計製図の選択問題(給排水衛生設備)を確実に合格するため「**H21~H29を分析取りまとめた機器表一覧表**」を掲載した。建築設備士は、過去問を学習すると**1回で合格できる**ので、是非、当HPを活用頂き合格して頂きたい。

なお、設備設計1級建築士の講座は、会員講座のみである(下記参照)。

表 会員講座の目次

設備設計1級建築士(無料講座)
※設備設計1級建築士は会員講座のみでの講座
試験の現状把握や1回で合格する方法はトップの案内参照

設備設計1級建築士(会員講座)
1章 設備設計1級建築士の過去問一覧(H21~最新年度)
2章 過去問の解答一覧(H21~最新年度)
3章 項目別分析(2018年アップ)

